

学会記事

【第16回総会】（2023年7月1日、つくば国際会議場エポカル小会議室405、出席者40名）

呉羽正昭庶務委員長の開会の辞のあと、平井誠会員に議長に選出した。佐藤大輔庶務委員に書記を委嘱し、総会を開始した。

1. 2021年度会務報告について

松井圭介委員より報告あり会員数（2023年6月2日現在、380名）、第15回大会（2022.6.26）の開催（つくば国際会議場、参加者50名）、機関誌「地理空間」の刊行（第15巻1号～3号、展望1編、論説1編、リサーチ・ペーパー2編、特集13編、地理資料3編、書評、学会記事等を掲載、地理空間掲載論文のJ-STAGE登載、ニューズレターの発行（第36号（2022.6））、ホームページ・メーリングリスト（jags-ml）の運営、日本学術会議協力学術研究団体（2013年9月24日から）、2023年度学会賞選考結果について報告があった。

[地理空間学会学会賞]

<特別賞>

該当なし

<学術賞>

受賞者：アコマトベコワ グリザット

受賞対象：

アコマトベコワ グリザット『転換する観光経験—ポスト社会主義国キルギスにおけるソ連時代経験者の観光実践を中心に—』立教大学出版会、2021-03

受賞者：平 篤志

受賞対象：

Atsushi Taira. Beyond the cluster: A case study of pipelines and buzz in the glocal relational space of the glove-related industry of Shikoku. *Geographical Journal*, 186: 45-58, Mar. 2020. <https://doi.org/10.1111/geoj.12333>

Atsushi Taira. Staying alive by going glocal: A case study of the towel-related industry balancing FDI and a local industrial cluster in Shikoku, Japan. In J. Banski (ed), *Dilemmas of Regional and Local Development*, Routledge, pp. 243-259, Jun. 2020. DOI: <https://www.taylorfrancis.com/chapters/edit/10.4324/9780429433863-15/staying-alive-going-glocal-atsushi-taira>

Atsushi Taira. Small but resilient: A case study of the Town of Utazu, Kagawa, Japan. In J. Banski (ed) *The Routledge Handbook of Small Towns*, Routledge, pp. 125-137, Aug. 2021. <https://www.taylorfrancis.com/chapters/edit/10.4324/9781003094203-12/small-resilient-atsushi-taira>

Atsushi Taira and Rolf D. Schlunze (eds). *Management Geography: Asian Perspectives Focusing on Japan and Surrounding Regions*. Springer Singapore, 228p. (Sep. 27, 2022) DOI: <https://doi.org/10.1007/978-981-19-1111-1>

org/10.1007/978-981-19-4403-1

<奨励賞>

該当なし

2. 2022年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より2022年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について山下清海会計監査、村山祐司会計監査より適正であると承認したことが報告された。2022年度決算案は異議なく承認された。

3. 2023年度事業計画案について

松井圭介常任委員長より2023年事業計画について、機関誌「地理空間」第16巻1号(2023.6.20)、第16巻2号(2023.12.20)、第16巻3号(2024.3.31)の刊行、第16回大会の開催(2023年7月つくば市)、第17回大会の開催計画(2024年場所未定)、例会の開催、巡検の開催、学会賞や若手研究者助成による研究奨励、ニューズレターの発行(発表要旨特別号の発行を含む)、ホームページ、メーリングリストの管理・運営が提案された。2023年度事業計画案は異議なく承認された。

4. 2023年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より、2023年度予算案について、収支と支出に関する説明がなされた。2023年度予算案は異議なく承認された。

5. 役員・専門委員会の構成について

松井圭介常任委員長より役員および専門委員会(2022年7月1日～2024年6月30日)の構成員について提案がなされた。役員及び専門委員会構成員は異議なく承認された。

2022～2023年度役員(2022年7月1日～2024年6月30日) 下線は新規

会 長：加賀美雅弘(東京学芸大)

会計監査：村山祐司(筑波大名誉)、山下清海(筑波大名誉)

常任委員：松井圭介(常任委員長、筑波大)、呉羽正昭(庶務委員長、筑波大)、山下亜紀郎(会計委員長、筑波大)、森本健弘(集会委員長、筑波大)、堤 純(編集委員長、筑波大)

評 議 員：秋山千亜紀(大東建託賃貸未来研究所・筑波大)、池庄司規江(茨城大)、池田真利子(筑波大)、井田仁康(筑波大)、伊藤徹哉(立正大)、岡村 治(立正大)、兼子 純(愛媛大)、川瀬正樹(広島修道大)、木村昌司(茗溪学園)、久保倫子(筑波大)、呉羽正昭(筑波大)、駒木伸比古(愛知大)、篠原秀一(秋田大)、杉本興運(東洋大)、須山 聡(駒澤大)、堤 純(筑波大)、中西僚太郎(筑波大)、中村理恵(高崎女子高)、仁平尊明(東京都立大)、林 琢也(北大)、平井 誠(神奈川大)、福本 拓(南山大)、藤永 豪(西南学院大)、松井圭介(筑波大)、丸山浩明(立教大)、三木一彦(文教大)、三橋浩志(文科省)、森本健弘(筑波大)、山下亜紀郎(筑波大)、山下宗利(佐賀大)、

吉田道代(和歌山大), 若本啓子(宇都宮大) 32名

<専門委員会>

庶務委員会：呉羽正昭(委員長), 秋山千亜紀(副委員長), 黒澤俊平, 佐藤大輔, 鈴木修斗, 中川紗智, 橋爪孝介, 吉沢 直

会計委員会：山下亜紀郎(委員長), 久保倫子(副委員長), 麻生紘平, 薄井 晴, 中村瑞歩

集会委員会：森本健弘(委員長), 青島光太郎, 遠藤貴美子, 大沼勇斗, 川添 航, 小林飛文, 坂本優紀, 佐野浩彬, 竹原繭子, Mao Yaqian, 矢ヶ崎太洋, 劉 逸飛

編集委員会：堤 純(委員長), 須山 聡(副委員長), 橋本暁子(副委員長), 飯塚 遼, 井口 梓, 石井久生, 磯野 巧, 伊藤徹哉, 大石貴之, 片岡博美, 久木元美琴, 小島大輔, 佐藤大祐, 田中耕市, 淡野寧彦, 仁平尊明, 橋本 操, 林 琢也, 平井 誠, 福本 拓, 藤田和史, 山本健太, 吉田道代

(書記)：岩井優祈, 村田航平

学会賞選考委員会：(※2023年7月1日～2024年6月30日, 1年間)

井田仁康(委員長), 岩間信之, 中村周作, 仁平尊明, 横山 智

6. その他

とくになし。

以上で議事を終了し, 平井議長による書記と議長の解任が行われた後, 呉羽庶務委員長の閉会の辞をもって, 総会は終了した。

【大会報告】

第16回大会(2023年7月1日, つくば国際会議場において対面形式で開催, 出席者77名)

・一般発表

(*は共同発表の登壇者)

袁 星雅*(筑波大・院)・下田一太(筑波大)：米国における視覚的影響評価(VIA)の特徴と発展傾向—洋上風力発電事業に着目して—

小島大輔(大阪成蹊大)：「ご当地スポーツ」イベントの成立とその存続基盤—新潟県十日町市松代地域「のつとれ!松代城」の事例—

廣部恒忠(明海大)：東京圏における地域経済の地理的な特徴や関連性等について

羽田 司(長野大)：塩尻市におけるワイン原料ブドウ供給地の広域化

田林 明(筑波大・名誉)：フィールドワークによる農業・農村地理学研究の手順と方法

・会長講演

加賀美雅弘(東京学芸大)：エスニック集団に着目したヨーロッパの地域理解

・ポスター発表

- 川添 航(立正大)：1990年代以降の葬送観の転換と宗教用具産地—愛知県名古屋市における仏壇・仏具産業の事例—
- 有田英樹(筑波大・院)：公共図書館における中心地移転の合意形成過程と利用者変化—兵庫県加古川市での駅前移転を事例に—
- 杉本興運(東洋大)：人流データを活用した観光地誘致圏の時空間的变化の分析—箱根町を事例として—
- 平 直也(筑波大・院)：新興住宅地における地域防災力向上の課題—千葉県野田市光葉町を事例に—
- 鹿嶋 航(筑波大・院)：平成28年(2016年)熊本地震からの復興段階での建造物と地域の変化—熊本市新町・古町地区を事例として—
- 大西健太(都立大・院)：北海道積丹町における観光空間の特性と地域活性化の課題
- 青島光太郎(東京大・院)：駅広告と店舗の空間配置—看板を指標とする地理学的可能性—
- 谷中友紀(筑波大・院)：高速道路における割引施策前後の通勤流動の変容と要因について—千葉県木更津市を事例に—
- 加藤悠太郎(筑波大・院)：岩手県陸前高田市における東日本大震災からの復興に伴う都市内部構造の変化—商業地再建と社会関係資本に注目して—
- 名倉一希(海城中高)：高校地理における主題図作成を通じた地域学習の実践
- 安田奈央(都立大・院)：福岡市天神地区における賑わいの時空間変化—COVID-19流行前後の歩行者通行量データと人流データを用いて—
- 竹田一登(筑波大・院)：道の駅における観光ゲートウェイとしての役割—「道の駅かさま」を事例に—

【地理空間学会会則】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【編集委員会からのお知らせ】

2023年4月～2023年9月：未受理原稿および左記期間に投稿された5本の原稿について閲読結果をもとに検討した結果、「リサーチ・ペーパー」3編を受理した。

【編集委員会からの J-Stage 公開のお知らせ】

機関誌『地理空間』の Web 上での公開方法が変更になりました。「論説」や「リサーチ・ペーパー」などの論文はすべて J-Stage 上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開することになりました。なお、次号の掲載までの「最新号」については、各論文の要旨のみ地理空間学会ホームページ上 (<http://jags.ne.jp/>) で公開し、最新号の刊行と同時に、前号の全文を J-Stage 上で公開いたします。なお、書評や学会記事、例会要旨などについては、引き続き、本学会ホームページ上でのみ公開いたします。

【次号以降の投稿について】

第17巻1号は、2024年6月20日の発行を予定しております。第17巻1号の原稿については随時受け付けておりますが、第17巻1号に掲載されるには、2024年3月末までに受理が出ている必要があります。内容は最新の論考から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。

本学会の活動を幅広く認知してもらうために、会員の皆様の大学研究室や大学・高校の図書館におきまして、会誌『地理空間』の定期購読を是非ご検討のほどお願いいたします。ご購入いただける場合には、編集委員会 (geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp) までお知らせください。

【オンライン版（電子版）の3号の刊行について】

2016年度総会において、現行の年2号の紙媒体での印刷・発行に加え、オンライン版（電子版）の3号（年度末発行）を新たに発行することが決まり、すでに9巻3号（2017年3月）、10巻3号（2018年3月）、11巻3号（2019年3月）、12巻3号（2020年3月）、13巻3号（2021年3月）、14巻3号（2022年3月）、15巻3号（2023年3月）を刊行しました (<https://jags.ne.jp/archives/2201>)。オンライン版（電子版）の3号の概要は以下の通りです。

- ・シンポジウム報告を含む特集論文は、各巻3号に掲載する。
- ・特集論文の企画代表者は学会員に限る。ただし、各論文の著者については、会員か非会員かは問わない。
- ・特集論文の企画は、毎年度9月末日までに企画代表者が事務局（編集委員会）へ申し出る。
- ・企画代表者は、編集委員会にゲストエディターとして加わり、当該特集論文の査読・編集に携わる。
- ・特集論文の掲載・発行にかかる実費相当額（校正費用とPDF作成費を合わせた1ページ当たりの実費：約4,000～5,000円）は、企画代表者（または論文の著者）が負担する。
- ・各巻3号は、発行後速やかにJ-Stage上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開する。紙媒体の1、2号は、これまで発行から半年後に学会HPで公開していたが、これを変更し次号発行時に学会HPで公開する。すなわち、各巻1号は2号発行時、2号は3号発行時に学会HPで公開する。
- ・3号の印刷物（有償）を希望する会員は、個別に事務局へ相談する。

【投稿規程 & 執筆要項】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【新入会員】（2023年6月3日～2023年12月8日）

玉木伶穂（筑波大・学）

（会員数：381名、2023年12月8日現在）